

追悼特別上映

えんとこの歌

寝たきり歌人・遠藤 滋



激しくもわが扱ひ所探りきて

障害持つ身に「いのちにありがとう」

「えんとこ」は

遠藤滋のいるトコ。縁のあるトコ。

ありのままのいのちを生かし合いながら
生きる・・・トコ。



〈ドキュメンタリー映画〉 伊勢真一 監督作品

2019年/カラー/96分/製作：いせフィルム <http://www.isefilm.com>

えんとこの歌

寝たきり歌人・遠藤 滋



自らを他人と比べることなかれ
同じいのちは他に一つなし



ベッドの上で歌が生まれる。
遠藤滋と介助の若者たちとの触れ合い・・・
25年に及ぶ相聞歌、『えんとこの歌』に
耳を澄ませてほしい。



自分の足で歩こうという
思いを諦めない遠藤のように
私は生きようとしているだろうか

1999年に完成させた映画『えんとこ』は、脳性マヒで寝たきり生活を強いられながら介助者たちの力を借りて生きる学生時代の友人、遠藤滋の日々を3年間にわたって追ったドキュメンタリーだった。

《恐ろしき事件ならずや十九人 元職員に刺殺さるとは》

2017年、夏。神奈川県相模原市で起きた、障がい者大量殺人事件を知ったとき、すぐに思い出したのは遠藤のことだった。無性に遠藤に逢いたくなり、「えんとこ」を再び訪れた。20年近くの時間を経て、遠藤の障がいは進行し、喋ることも、食べることも、困難になっていた。しかし一方で、50代後半から遠藤は短歌を詠むようになり、心の叫びを言葉に託す日々を送っていた。

《足熟し身体も熱し痛し苦し かく叫びて今日も明けゆく》

ベッドに横たわりながら、進行する障がいの苦しみが歌われ、同時に70歳を越えて生き生きと人生を謳歌する悦びも歌われてきた。

《手も足も動かぬ身にいまさらには 何をせむとや恋の告白》

遠藤の寝たきりの日々は35年。「えんとこ」にカメラが入り、ベッドサイドでただただ遠藤と介助者たちの日々を記録しつつ25年あまりの歳月が流れた。その介助の日々は、心の交流のドキュメントでもあった。

ありのままのいのちを生かし合いながら生きる・・・とつづこと。

(かんとく・伊勢真一)

出演—— 遠藤滋 「結・えんとこ」介助者のみなさん
短歌朗読—— 友部 正人
撮影—— 石倉 隆二 宮田 八郎 安井 洋一郎
録音—— 永峯 康弘 井上 久美子
音響構成—— 米山 靖
編集—— 尾尻 弘一
テーマ曲—— 「不屈の民」 編曲 横内 丙午
演奏—— 谷ぐち 順 菅原 雄大 藤原 亮
宣伝デザイン—— 森岡 寛真 (ジオングラフィック) 遠藤 郁美
上映デスク—— 鷲見 真弓 今井 亜矢子
協力—— 伊勢 朋夫 矢吹寿秀 福島広明
あけび短歌会 大津留 直
制作協力—— クロスフィット ハチプロダクション 一陽社
上映協力—— エーザイ株式会社
企画製作—— いせフィルム
演出—— 伊勢 真一

遠藤 滋 (えんどう しげる)

1947年静岡生まれ。1歳の頃脳性マヒと診断される。障害を引き受けながら自ら「えんとこ」を組織し、介助者の借りて自立生活を続けている。東京・世田谷のアパートの一室、「えんとこ」のベッドの上で、社会や自分自身を凝視するその眼差しで、50代から短歌を詠み始める。「えんとこ」は遠藤滋のいるところであり、縁のあるところ。いのちを生かし合う居場所である。2021年歌集『いのちゆいのちへ』(七月堂)を発表。2021年5月20日逝去。享年74。

伊勢 真一 (いせい しんいち)

ドキュメンタリー映像作家。1949年東京生まれ。遠藤滋とは学生時代の友人である。『奈緒ちゃん』(1995年)、『えんとこ』(1999年)、『風のかたち』(2009年)、『大丈夫。』(2011年)、『妻の病』(2014年)、『ゆめのほとり』(2015年)、『いのちのかたち』(2016年)、『やさしくなあい』(2017年)、『いまはむかし』(2021年) 他のヒューマンドキュメンタリー番組を制作。本作は『えんとこ』から20年を経た続編である。

【お問合せ】いせフィルム www.isefilm.com

〒150-0002 渋谷区渋谷1-9-4 トーカン渋谷キャスター406 (2018年4月より住所が変更になりました)
TEL: 03-3406-9455 FAX: 03-3406-9460 E-mail: ise-film@rio.odn.ne.jp

【妙覚寺】

8月15日(月) 19時

監督 × 岡宏住職
アフタートークあり

美祿市秋芳町嘉万 2673

0837-65-2875

※妙覚寺のみ鑑賞料 1500円

【北方シネマ】

9月9日(金) 18時

監督アフタートークあり

北九州市小倉南区北方 4-2-1

北九州市立大学 A-101 教室

080-6458-1184

【小倉昭和館】

9月10日に上映および監督のアフタートークを予定しておりましたが、この度の火災のため叶わないこととなりました。小倉昭和館の再建と映画が上映できることを北方シネマ一同こころから願っております。

映画鑑賞料：前売り 1000円 | 当日一般 1200円 | シニア・障がい者 1000円 | 大学生・高校生 500円 | 中学生以下無料

山口情報センター YCAM では 10月、別府ブルーバード劇場や西南学院大学などでも連続上映を予定しています